



平成 30 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(コード番号：8705)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 増 田 潤 治
電 話 03-5543-8705

平成 31 年 3 月期第 1 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 四半期純利益 |
|--|-------|------|------|--------------------------|
| 前年同期実績 (平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (A) | 803 | △12 | 13 | 55 |
| 当期実績見込み (平成 31 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (B) | 722 | 13 | 23 | 14 |
| 増 減 額 (B - A) | △81 | 25 | 10 | △41 |
| 増 減 率 (%) | △10.2 | — | 82.6 | △74.9 |
| (ご参考) 平成 30 年 3 月期実績 | 2,737 | △189 | △153 | △176 |

2. 差異が生じた理由

当第 1 四半期連結累計期間における商品市況は、貴金属は 6 月中旬までは方向感が無くレンジ内での推移となりましたが、6 月中旬以降はドル高を背景に下落しました。原油は中東での地政学的リスクの高まりから 5 月中旬までは堅調に推移しましたが、OPEC が主導する協調減産が緩和されるとの観測から上値を抑えられ、5 月中旬以降はレンジ内での推移となりました。これらの背景から、全国市場売買高は 11,934 千枚（前年同期比 103.1%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料につきましては、449 百万円（前年同期比 110.5%）となりました。また、売買損益につきましては、ゴム市場におけるディーリングで利益をあげたものの、46 百万円の利益（前年同期比 66.2%）にとどまりました。

この結果、営業収益は 722 百万円（前年同期比 89.8%）となる見込みであります。また、営業費用につきましては、708 百万円（前年同期比 86.8%）となる見込みであります。これらにより、営業利益は 13 百万円となり、経常利益は 23 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は 14 百万円をそれぞれ計上する見込みであります。

以 上